

義太夫協会会報  
第90号

平成22年1月1日

社団法人 義太夫協会発行  
〒104-0045 東京都中央区築地  
1-12-16 松竹会館別館3F  
TEL・FAX (3541) 5471  
<http://www.gidayu.or.jp>

### 本牧亭の記録

波多一索

新年おめでとうございます。  
本年もよろしくお願い申し上げます。

古典芸能の伝承を考えると、文字の記録と同様に音の記録が重要なことは言うまでもありません。日本のSPレコードは、明治36年英国グラモフォンによる日本への出張録音に始まります。この時の数多い録音の中に、名人といわれた常磐津林中(1842~1906)の貴重な演奏が残されています。このレコードは長唄の吉住慈恭、五世清元延寿太夫など後世の方々の芸の形成に多大な影響を与えました。七世芳村伊十郎は、「林中さんは名人ですネ。林中さんのレコードをしょっちゅう家でかけてたもんで、息子の伊四郎がまだ赤ん坊の頃、私がつまにほかのレコードをかけますとムズかってしょうがない、(中

略)泣く子もだまると申しますが大したものだと思いました」と林中の「独特の節まわし、よくわかる声の使い方」がいかに後世に大きな影響を与えたかについて語っておられます。

義太夫協会資料部にも本牧亭から数えて50年余、膨大な演奏の記録が残されています。しかし、貴重な演奏が多いにもかかわらず記録されたオーブンテープも劣化が激しく、いざ使用不可能になるところから、資料部が中心になって昨年より鳥居誠氏(音楽プロデューサー)に依頼、最新のデジタルデータへの変換作業がすすめられています。

今後は、昔の公演記録、当時の写真、古いプログラムなどの収集までも考えると、そのための費用も無視できません。昨年暮れには、こうした経費の捻出の目的もあって「本牧亭を聴く」というタイトルで竹本土佐広師の「壺坂」の演奏を聴く会が催されました。

新年にあたり、ライブラリーの充実などについて会員皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



○「五十而知天命」：平均寿命ではあと三十年、健康寿命ではあと二十年：なんとかならねば。今年も精進精進。 葵太夫

○一つ一つ丁寧に「意識」をして精進したいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。 綾一

○新年おめでとうございます。今年も様々な試練がやって参りますが、一ツ乗り越えながら、進んでゆきます。 綾之助

○昨年古いものを捨てて以来、枕なしで寝ておりましたら、肩こりが劇的に改善しました。今年も結果オーライで!! 賀寿

○新春を迎え、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。 賀津女

○あけましておめでとうございます。本年も女義発展の為、力を尽くす所存です。皆様方のご声援を心よりお願い申し上げます。 寛也

○実り多き年になりますように精進いたします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。 京之助

○政権交替により、難問山積の日本の出発。人間の命に関わる重き道を。然し遥かな光を目指し希望を持って心優しく一歩を踏み出しましょう。 幸治

○今年も雌伏の年：来年のMET&ミュージンペラ来日に備えて♪でも、トリーキョー・リングは行きますよっ!!

越京

○新年おめでとうございます。おもいやる気持ちで大事にしながら力強く前に進んでいきたいです。今年もよろしくお願ひいたします!

越孝

○景気回復のきざしが見えてから、改めて新年を祝いたいと思います。

越春

○皆様になかなかお目にかかれませんが、元気でおります。今は弟子たちの稽古が楽しみです。皆様にも良い年でありますように。

越道

○旧年中はお世話になりました。誠心誠意、精進して参りたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

越若

○駒清Jrは一歳になり、その好奇心や吸収力はすさまじく少し分けて貰いたいくらいです。今年も二足のわらじで頑張ります。

駒清

○今年も真面目に義太夫に取り組みたいと存じます。猫に現をぬかさぬよう努力致します。

駒治

○新年おめでとうございます。座右の銘である「初心忘るべからず」を心に刻み、今年も日々過ごして参りたいと存じます。

駒之助

○明けましておめでとうございます。一日一日、悔いの残らないよう大切に過ごしてゆきたいと思っております。

三寿々

○よくゆえうえやむかせをわけさりちひろてふつきぬあたへのいとはれすまんこそおみもねにしるほるならめへいろは四十七字+ん)

慎治

○おめでとうございます。皆様にはト、ラブルもなく佳き一年でありますように。私はト、ライの精神で頑張ります。

津賀榮

○昨年は、はじめて家族を亡くし、喪中ですごしております。一瞬一瞬の大切さを感じながら余生を生きたいと思います。津賀寿

津賀花

○明けましておめでとうございます。今年も一歩一歩努力を重ねていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

土佐恵

○時代が変っても、大事なものは変ることはない、と信じて、取り組んでいきたいです。皆様のご健康をお祈り申し上げます。

土佐子

○おめでとうございます。世の中、改革／＼と移り変わってゆきますが人の心は変わらぬもの、大事なものは失わぬようにしたいです。

友路

○明けましてお芽出とう存じます。九十六才が現役で頑張ってます。お身体御自愛の上皆様も頑張ってくださいませ。今後ともどうか宜しく。

道太夫

○「広い！明るい！」事務所に移転して一年、今年は資料類の増殖に備えて、整理するのが課題ですね。

素丸

○初春をお慶び申し上げます。田舎暮らしも一年を過ぎ、ようやく裾野を広げる活動を始めました。今年もよろしく御願ひ申し上げます。

紋榮

○帰り道、「家に着いたら、うがい、手洗いでするんだよ」と、いつも、仰ってくださいる越道御師匠様。どうぞお元気で!!

弥栄

○新年を迎え心新たに、地道という道を一歩一歩進んでまいりたいと思ひます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

弥吉

○新年あけましておめでとうございます。今年も皆様にとりまして、佳き年であります様、お祈り申し上げます。

弥清太夫

○虎は千里の藪を越す、というが格言通りに行かぬが人生、奇しくも自分の干支に自信がつく。新年を迎え更なる飛躍を念じつ、

弥乃太夫

○いつかできなくなることや今を今としたいと思ひ全力で走ったり、疲れて居眠りしたり。迷いの多い日々。皆様お体をおだいじに。

弥々

○素敵な一年になりますように。

弥々

○今年も皆様の幸せを願いつつ、過ごしてまいりたいと存じます。

事務局長 柴田良子

正会員  
TPO-CSC

：源平師匠ありがとうございました。  
豊澤源平師が、昨年10月17日に、99才で逝去されました。つつしんでご冥福をお祈り申し上げます。



協会社団法人化30周年  
感謝のつどいにて(真中が源平師)

【略歴】

- 明治42年11月4日 大阪市西区生まれ
- 大正3年 祖父(三代目豊澤團平)に師事
- 4年 初舞台
- 10年 父(豊澤源吉)に師事
- 12年 豊澤榎千代と名乗る
- 昭和25年 豊澤源平と改名
- 57年 尼崎市文化功労賞
- 61年 重要無形文化財総合指定保持者
- 平成4年 社団法人義太夫協会理事
- 5年 義太夫節保存協会理事
- 勲五等瑞宝章

日頃のご愛顧に感謝致します  
このたび櫺屋を改め  
きむらとさせていただきます  
今後増々の御引立て  
よろしくお願い致します

三味線/製造・販売・張替・修理

**きむら**

〒151-0066 東京都渋谷区西原1-26-14  
TEL/FAX 03-3466-2156  
P・H・S 070-5457-5687

「因協会関係受賞歴」  
昭和33年 人形浄瑠璃因協会賞奨励賞  
39、46、53年 人形浄瑠璃因協会賞  
平成6、12年 人形浄瑠璃因協会賞

「最後の舞台・於東京」  
平成12年9月22日 義太夫協会社団法人化三十周年記念公演で、「天網島時雨炬燵・紙屋内の段」を太夫竹本越道でつとめた。

重要無形文化財保持者 追加認定

義太夫節は、昭和五五年に重要無形文化財に指定され、その保持者として、義太夫節保存会会員が総合的に認定されています。  
二〇〇九年九月二日、新たに十名が重要無形文化財保持者の団体構成員の追加認定を受けました。

このたび認定を受けた十名は、以下の通りです。

【太夫】

【三味線】

- |       |      |
|-------|------|
| 竹本友喜美 | 鶴澤寛輔 |
| 竹本越京  | 鶴澤住輔 |
| 竹本蝶   | 鶴澤賀壽 |
|       | 鶴澤津  |
|       | 鶴澤治  |
|       | 鶴澤司  |
|       | 鶴澤悠美 |
|       | 鶴澤寛也 |



ぎだゆう座十周年！

去る十月一日、二日に亘り、お江戸上野広小路亭にて、ぎだゆう座十周年の記念公演が開催されました。

演目は、「団子売」と「阿古屋」の二番。両日共にほぼ満員のお客様に祝って頂きました。

じよぎ公演が、若手の研鑽の場として始めたのに対し、この「ぎだゆう座」は、義太夫節の普及を目指して始めました。

「これからも、普及に力を入れ、一人でも多くの方に義太夫を知って頂きたい」と、座員一同、はりきって居ります。

今後共、暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



美しい未来へ 女流義太夫韓国公演

(ソウル 国立国学院)

二〇〇九年六月二十七、二十八日の二日間、新日本製鐵、新日鐵文化財団主催による日韓伝統音楽交流の一環として、女流義太夫の韓国公演が行われた。

この演奏会は、日韓を代表する鉄鋼会社である新日本製鐵と、韓国のPOSCOとの音楽メセナ活動によって実現した。日本の女流義太夫と八王子車人形、そして韓国のカヤグム(箏の一種)や歌によって構成された内容で、日韓両国語による解説もあり、充実したプログラムだった。

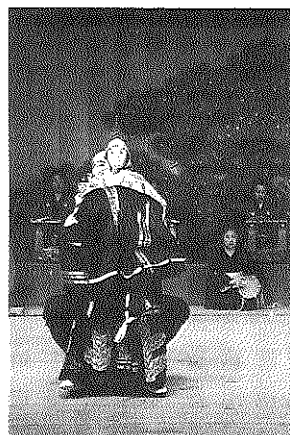
まず最初は女流義太夫と車人形による「三番叟(浄瑠璃 駒之助、越孝、越春 三味線 津賀寿、三寿々)。望月太左衛社中による囃子も加わり、最初の演奏に相応しい松羽目物にて幕を開けた。

続いて韓国のカヤグムと歌を挟み、「日高川」渡し場の段(浄瑠璃 駒之助、越孝 三味線 津賀寿、三寿々)。今回の上演は、清姫が蛇に変身して川を越え、道成寺へ向かうが、そのあと結局僧侶によって二人は救われる、というストーリー。

こちらも車人形や囃子があることでより内容が分かりやすく、眠っていた船頭が「ウ、ウーン」と伸びをすることで万国共通、客席のあちこちから笑い声が漏れた。

三泊四日の滞在中は、流行りの韓国コスメ

店で土産を購入したり、タクシーで東大門へ繰り出したたり、焼き肉を食べに行ったり等、本番の僅かな合間に韓国ライフも楽しんだ。日韓ともども、西洋文化に関することは学校で教わっても、かえって隣国に関する文化に関しては教わる機会に乏しいのが現状であるという。今回の催しが互いの友好への更なる一歩となったとすれば、女流義太夫がその一役を担えたことは誠に喜ばしいことである。

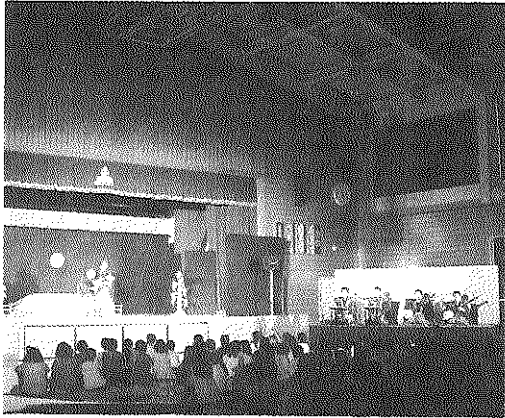


提供：新日鐵文化財団

### 「江戸系あやつり人形座」

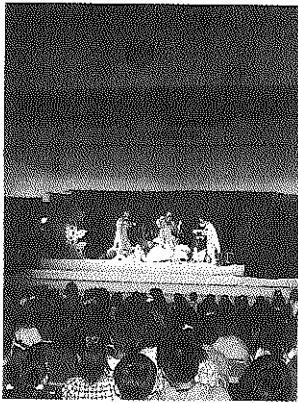
9月から12月にかけて全22回、北海道東北地方の小・中学校公演にご一緒しました(文化庁「本物の舞台芸術体験事業」)。  
 「江戸系あやつり人形座」は、結城座から03年に独立した結城一糸さんが兄・田中純(元十一代目結城孫三郎)さんと共に05年に設立されました。

演目は「三番叟」「橋弁慶」「田能久」の3つ。事前に座員の皆さんがワークショップとして各校を訪れ、糸あつりの解説等を行い、今回実際の舞台を見て頂くというものです。朝、学校に到着してまず舞台設営、照明・音響のチェック、生徒さんとお稽古、と準備を進めます。今回の公演では各校2名の生徒さん



に実際に人形を遣って頂くことになっており、お昼休み等を利用して舞台で稽古が行われました。生徒さん達が出演するのは「田能久」。

旅役者の田能久が国へ帰る道すがら恐ろしい大うわばみと鉢合わせし、命からがら逃げおこせませす。そして機転をきかせて探り出したうわばみの弱点を村人達に伝え、めでたく村には平和が。そのうわばみ退治に活躍する村人の人形を遣うのが生徒さん達の役割です。少人数で効果をあげられるよう数体の人形がひとつにつながっているため、バランスをとるのが難しく、はじめのうちには歩くだけでも大変そうでした。が、客席に効果的に見せられる持ち方、動きをはっきりさせる遣い方等々、座員の皆さんから指導を受けるうちにどんどん上達し、1時間足らずの稽古が終わる頃にはせりふも元気にこなせるようになっていました。体験した生徒さんはもちろん、見ている側も自分たちの仲間が出ている、ということでも舞台がとても身近に感じられている様子が演奏していても手に取るようにわかり、毎回とても充実した公演でした。



### ほんに気がメクリヤス(七杯目)

鶴澤慎治

実にこの一年ほどは、歌舞伎座建替え決定に端を発する興行数増加による多忙のため、なかなかこの欄に意識を向けることができず、先回はお休みさせて頂きました。

さて、どこから話を再開したものかと思案しておりましたところ、舞台でよくご一緒する市川亀治郎さんが、NHK教育テレビ「ほんごであそぼ」に出演されるにあたり、亀治郎さんがセリフのように名文を読み、踊りや芝居のように動くのに合わせて三味線を弾くお手伝いをさせて頂く機会を得ましたので、そのあたりの話から復旧をはかりたいと存じます。

皆様ご承知のように、同番組では既に鶴澤清介・豊竹咲甫大夫の両師が素晴らしい演奏を聴かせて下さっておりまして、私の方はアイディア・演奏共に足下にも及びません。

亀治郎さん出演の放送は、この会報がお手元に届く正月からの予定ですが、もしそのときに下手くそな義太夫三味線の音が聞こえて来たら、私が犯人です(笑)あしからず。

だから、というわけではないのですが、最近の私のマイブームは、文字通り「日本語で遊ぶ」こととして、子どもが使っていた五十音積木を並べては、「21世紀のいろは歌」(いろは四十七文字+「ん」を一度ずつ使って文を作る)を目指して遊んでいます。ルールは

極めていい加減(メリヤスの原稿も書かず  
にこんなことをする私もいい加減)「る」「え」  
なども普通に「い」「え」としてフレキシブル  
に活用して、何とかいろいろは歌に匹敵する歌を  
見いだせないものと日々頭を絞っておりま  
す(だからその暇あったら…以下略)。

最近作ったうちで、まあまあ意味が通るよ  
うにできた作品です。私の意味不明な一口年  
賀状は実はこれです。

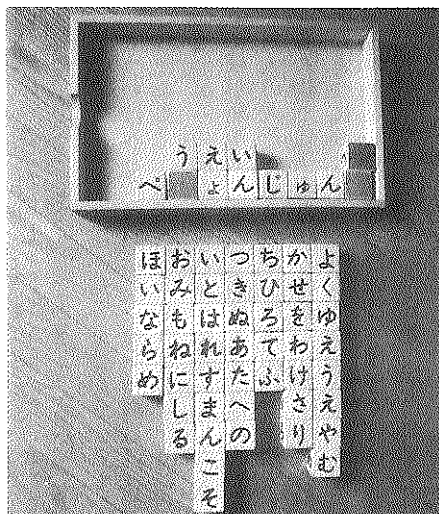
『欲故飢え病む 枷を分け去り 千尋てふ尽  
きぬ与えの いと晴れ澄まんこそ 御身も根  
に識る 本意ならめ』

人には色々な欲・煩惱があって、それ故に  
もっと欲しいと思ったり、思い悩んだりする  
(「欲故飢え病む」) そうした心にかかる枷  
の正体を見極めることで、それらの枷から自  
由になれば(「枷を分け去り」)私の命、そし  
てそれを維持するために必要な天地の理(水  
とか空気とか、生命によって本当に欠かさ  
ことが出来ないもの・法則)は限りなく無条件  
に与えられている(「千尋てふ 尽きぬ与え」)  
ことが、すっきりと見えてくるだろう(「いと  
晴れ澄まんこそ」)人はそれを誰から習うわけ  
でもないが、実感することが出来る(「御身  
が根に識る」)それこそが、人の本性、本来の  
姿、本心ではないか(「本意ならめ」)

「いろは歌」の無常観に対して、禅でいう  
ところの「真面目(しんめんもく、本来の自  
分というような意味)」、正月に鯛髷を持って

家々を廻った一休さんのメッセージに対して、  
漱石をして「則天去私」の境地に至らしめた  
良寛さんの、花に群れる蝶や、子どもたちを  
見る優しい目：そんな境地を指し示そうとし  
たつもりですが、なかなかいろいろは歌のよう  
には行かないものです。皆さんもチャレンジ  
してみてはいかがですか？  
…と、いったいこの原稿のどこが復旧に当た  
るのか分かりませんが、次回こそはメリヤス  
の話に戻れるよう努力する予定です。お  
詫び代わりにこちらをどうぞ。

『あへなき指腫れ居 骨欠けす いらち笑う  
て そこを堪ふ 勤むる三味も 恩師のやふ  
に よくめえりませぬ』「骨欠け」はちよっ  
と大げさか：(次号に続く)



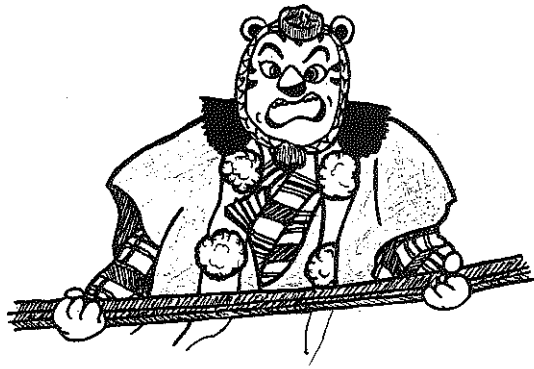
協会の動き

09年7月より  
09年12月まで

- 7月22日 女流義太夫演奏会 於国立演芸場
- 7月23日 教員免許状更新講習 於国立劇場
- 7月27日 義太夫教室第62期初級閉講式 於TKビル
- 8月1・2日 ぎだゆう座二日間 夏休みお楽しみ企画 於上野広小路亭
- 8月14日 常務理事会 於弥乃太夫宅
- 8月19日 女流義太夫演奏会 若手勉強会 於国立演芸場
- 8月22日 一日体験教室 於TKビル
- 8月23日 納涼女流義太夫ミニコンサートⅢ 於ほり川
- 9月1・2日 「じよぎ」公演二日間 於上野広小路亭
- 9月2日 八王子車人形公演 於府中の森芸術劇場ふるさとホール
- 9月3日 義太夫教室第62期中級開講 於TKビル
- 9月9日 編集部会 於協会事務所
- 9月9日 邦楽連合会番組編成会議 於(財)古曲会事務所
- 9月17日 女流義太夫演奏会 菅原伝授手習鑑 於国立演芸場

- 9月24日 日本和装三味線ワークショップ  
於人形町センター
- 9月28日 第2回 竹本土佐恵の会  
於内幸町ホール
- 9月29日 日本和装三味線ワークショップ  
於人形町センター
- 10月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間  
10周年記念公演 於上野広小路亭  
日本芸術文化振興基金説明会 於日本青年館
- 10月10日 第七回京の会  
於自由学園明日館
- 10月13・15日 本物の舞台芸術体験事業  
乙女文楽学校公演  
京都市立旭丘中学校、立命館小学校、  
小松市立丸内中学校  
10月27日 女流義太夫演奏会 於国立演芸場  
11月1・2日 「じよぎ」公演 二日間  
於上野広小路亭
- 11月3日 祖先祭 於両国回向院  
11月3日 公演部会 於両国回向院
- 11月7日 まるごと一段！  
於M A K O T O シアター銀座  
11月8日 公演部会 千歳船橋稽古場  
11月13日 編集部会 於協会事務所
- 11月19日 女流義太夫演奏会  
仮名手本忠臣蔵 於国立演芸場
- 11月21日 第九十一回 大日本素義会  
於鳥越神社白鳥会館

- 11月26日 12月3日、10日  
悠遊ライフ芸能講座 忠臣蔵を  
語ってみよう 於芸能花伝舎
- 12月1・2日 「ぎだゆう座」公演 二日間  
仮名手本忠臣蔵 於上野広小路
- 12月14日 第14回 竹本越孝の会  
於内幸町ホール
- 12月16日 編集部会 於協会事務所
- 12月17日 女流義太夫演奏会 障害者の為の  
特別公演 仮名手本忠臣蔵  
於国立演芸場
- 1月1日 会報90号発行



今後の予定

- 1月7日～3月18日 義太夫教室第62期上級  
於お江戸上野広小路亭
- 1月9日 ぎだゆう座初春公演  
三味線組曲・触れ太鼓(財)日本相撲協会  
相撲甚句 呼び出し三郎ほか  
新曲 釣女 於お江戸両国亭
- 1月19日 女流義太夫演奏会 於国立演芸場
- 2月23・24日 紀尾井人形浄瑠璃 女流義太夫の  
新たな世界 於紀尾井小ホール
- 3月3日 第七回 素浄瑠璃の会  
(主催・三寿々) 於お江戸日本橋亭
- 3月6日 義太夫教室OB演奏会  
於スペースFS汐留
- 3月9日 女流義太夫演奏会 伝承者研修発表会  
於国立演芸場
- 3月20日 都民芸術フェスティバル 第40回 邦楽演奏会  
第一部 関取千両幟 猪名川内の段  
竹本駒之助、竹本綾之助、竹本越孝、  
鶴澤津賀寿ほか  
第二部 関取千両幟 櫓太鼓  
鶴澤寛也ほか 於国立小劇場
- 3月29日 女流義太夫演奏会 於国立演芸場

国立演芸場  
女流義太夫演奏会

年 月 日	曜
22年1月19日	火
3月9日	火
3月29日	月
4月21日	水
5月24日	月
6月22日	火
7月21日	水
8月30日	月
9月21日	火
10月21日	木
11月24日	水
12月16日	木
23年1月19日	水
3月7日	月
3月29日	火

開場 6時  
開演 6時半

月により日程が違います。  
ご注意下さい。  
どうぞよろしく  
お願い申し上げます。

ぎだゆう座初春公演のお知らせ

平成22年1月9日(土)

開場 午後1時 開演 午後1時半

万歳・鶯娘

越京・佳之助・越春

触れ太鼓

三寿々・津賀花・弥吉

相撲甚句

財団法人日本相撲協会

新版歌祭文

特別出演呼び出し三郎他

野崎村の段

越孝・駒治・津賀榮

場所 お江戸両国亭 入場料 千五百円

会場前にて清酒の振舞いをさせて頂  
きます。皆様のご来場をお待ち申し上  
げております。

〔寄付〕

大日本素義会様

出月 清人様

三万円  
五万円

〔寄贈〕

西川礼子様

竹本朝重師遺品

肩衣

肩衣

肩衣単品

袴

着付

10組  
1枚  
4組  
2枚

神田由築様

著書「江戸の浄瑠璃文化」

豊澤仙鳳様

袴 7枚

竹本三味線方様

上がり糸

【編集後記】

- めでたく90号発行となりました。 T
- おもや若手部員のスピードに目を白黒 A
- 昨年は、海外、国内ともに移動の多い一年 S
- でした。今年はどうかしら？ S
- 「糸あやつり」で訪れた留萌の港にロシア K?
- 語の看板があったのが印象的でした。 K?
- 先輩の細やかな配慮に感心してばかり…。 A
- 学ぶことがたくさんあります！ K
- 100号も、めでたく迎えたい！ Y

